



昭和二十一年（一九四六）の南海地震の時に、川に泊めた船の中で泊まっていた人の体験談です。

新町川に泊めてある船が私の住まいである。その晩も私は船の上で眠っていた。明け方、船が大きく揺れた。「風もないのに、えらい波じゃの」その時、私は津波のことは少しも思いつかず、そのまま眠ってしまった。しばらくすると、「プツン」という音がした。船をつないであるロープが切れる音である。「只事ならぬことが起きている」咄嗟にそう思った私は慌てて外に飛び出した。私は、そこで想像を絶する光景を目の当たりにした。普段はほとんど流れのない川が上流へ激流となって流れているではないか。

私に乗せた船は、流れのなすがままに上流へ流されていった。「何が起きているのだ」私の頭は混乱していた。ようやくかちどき橋に船の上の部分がひっかかって止まった。ところが、次から次へと流されてくる船が、かちどき橋でだんご状態になりはじめた。私はかちどき橋が落ちるのではないかと不安になり、船につないであった小さな舟に飛び移り岸へ逃げようと思った。しかし、小さい舟はすぐに波に覆われ沈みそうになった。私は急いで、大きい船に飛び乗った。その瞬間、小さい舟は、流れてきた木材に押しつぶされて、「バリバリ」と音を立てて沈んでしまった。

呆然とばらばらになった小舟の破片を眺めていると「ミシミシ」という音が聞こえてきた。今度は飛び乗ったこちらの大きな船も、他の船に押しつぶされそうである。「もう駄目だ」と思った時、三トンののはしけ船が私の船に突っ込んで来た。私は慌ててはしけ船へ綱を伝って上がり、はしけ船からかちどき橋に上がり川岸にたどりつくことができた。

背景

かちどき橋は、徳島市街地を流れる新町川にかかっている橋で、昭和16年（1941）に完成しました。この橋の南詰めの交差点は、徳島と松山を結ぶ国道11号の起点にもなっています。また、昔は新町川には多くの船が係留され、沖合いには貯木場があり、周辺から集められた材木がいかだを組んで保管されていました。

船に乗っている時は地震の揺れが分からないので、津波の発生には注意が必要です。

アクセス かちどき橋（新町川）

- JR徳島駅より南東へ直線距離約1 km
- 徳島市中州町
- 緯度経度 北緯34度04分01秒，東経134度33分25秒



昭和30年代以前